関東ボクシング2部リーグ

駒澤 VS 大東文化

チームに先制勝利と勢いを与えた藤井

5月26日に後楽園ホールにて大東文化大学との試合が行われた。昨年1部リーグから降格し、今年から2部リーグに参戦した大東のリーグ戦績は2戦2勝で駒澤、明治と並び上位グループである。優勝争いをかける大事な一戦でもあり、駒大にとっても今までより厳しい戦いが予想された。また4年生は全員階級を一つ上げる戦略で挑んだ試合だった。

【LF】	永松翔太○	（棄　権）	●山口　靖
【F】	菅浦大輔●	（ポイント）	○山川昂大
【B】	藤井裕介○	（ポイント）	●功刀大輔
【Fe】	湯本隆広○	（ポイント）	●西村直哉
【L】	清水　聡○	（ＲＳＣ）	●関野晃平
【LW】	高野倫翔○	（ポイント）	●木村広大
【W】	石原広大○	（ポイント）	●石川哲也

勢い止まらず優勝へ王手！

今回、初戦の出だしでチームに勢いを与える事が出来るかが鍵とされていた。しかし大東のLF級が棄権のためF級から試合開始となった。F級2年菅浦は判定で惜しくも敗れたが、続くバンタム藤井が左ジャブからの右ストレートを駆使し、3ラウンドまで勢いのあるファイトで完全にチームに流れを呼び込む勝利を決めた。Fe級の湯本も身長と体格差のある相手に途中左目まで負傷させられるもひるむ事なく連打を食らわせ判定勝利。「負けると思った。勝利が決まった瞬間本当に嬉しかった」と勝利の時に大きなガッツポーズを見せた。そして、チームの勝利をかけたL級では清水が上半身の動きを巧みに使ったスウェーとフットワークで攻撃を避け、リーチを利用した左からのストレートとフックを中心に打ち込んだ。相手の鼻血でグローブを赤く染め、3ラウンドでRSC勝利を決めた。終わってみれば6－1となり平田監督も「上出来ですよ」と予想以上の選手達の活躍に満足の笑みを見せた。

（近藤健吾）

写真上：勝利に喜びガッツポーズをする湯本
写真右：巧みな技で試合を決めた清水

チーム4連勝
～優勝決定戦に向けて～

4月15日から5月26日にかけてリーグが現在5戦中4試合行われた。各階級に4年生を揃え、今年を見据えてやってきた駒大は現在4連勝中。

そのチームを統率しムードメイカーでありながら、リーグではリングに追い詰める力強いインファイトを見せたW級の平井啓太主将。速い連打と手数での攻めるインファイトを得意とするB級の湯本。そして、178㎝の長身を活かしたリーチと攻防の高度なテクニックを持つFe級の清水がいる。「次も絶対勝ちます。個人で全勝。チームも全勝優勝」がチームの口癖のように主将と2人のエースの口からも同じ言葉を何度も耳にした。あと1勝すればその言葉は現実となり、2部リーグ優勝と1部リーグ入替戦への切符を手にするのだ。

【リーグ戦績】
☆駒大６－１帝京大
☆駒大６－１専大
☆駒大６－１日体大
☆駒大６－１大東文化大

【優勝決定戦日程】
対明治大学戦
６月９日(土)
12時00分試合開始
場所：後楽園ホール

日体戦ではＲＳＣ勝利した高野

優勝目前の最終試合の相手は明大。駒大と同じく優勝候補として挙げられていた強豪のチームである。熊本コーチは明大戦に向け「自分達より強い相手だからこそ面白い。選手がそれを乗り越えて始めて勝ちと言える」と語った。優勝決定戦は6月9日、後楽園ホールで拳と拳が交わる。

（近藤健吾）